

岡山大学附属図書館におけるネーミングライツの取り組み

富岡達治

1. はじめに

岡山大学附属図書館は、2020年9月11日にオージー技研株式会社、株式会社岡山村田製作所の両社とネーミングライツ・パートナー契約を締結した¹⁾。本契約により、中央図書館の施設に「OG Wellness SALON」,「ムラタアカデミア」,「ムラタスクエア」の愛称が付され、企業と連携する機会を拡大するとともに本学および地域の活性化に貢献することが期待されている。

本稿では、契約締結に至るまでの経緯や契約締結後の対応について、紹介する。

2. 背景

国立大学においては、運営費交付金の削減が続く中、経費節減とともに増収対策として新たな財源獲得が求められている。

本学においても2019年7月に「岡山大学ネーミングライツの運用等に関する要項」を制定し、8月から公募を開始した。なお、公募・選定等に関する事務は大学本部（財務部）が行っている。

3. 対象施設の選定

対象施設の選定にあたり、他機関の状況を調査すると、「施設の全体」、つまり図書館そのものの名称を対象とする場合と「施設の一部」を対象とする場合があった。当館では、施設全体を対象とすると、影響の範囲が大きくなりすぎる等の懸念があり、以下の2区画、4施設を対象施設とした。

(1) ラーニングコモンズ, リフレッシュスペース

中央図書館本館1階に隣接するアクティブラーニング実践の施設である。また、リフレッシュスペースには、飲料の自動販売機が設置されている。学生の利用も多く、授業やイベント等も実施しており、告知時の会場案内で名称を使用する機会が多いため、ネーミングライツ対象施設としての効

果が高いと判断した。

(2) サルトフロresta, ヒヨセルーム

サルトフロresta（「飛翔の森」の意）は、中央図書館本館2階の施設で、岡山県産の木材を使用した多様なデザインの机や椅子を設置している。また、ギャラリースペースとして、さまざまな展示企画でも使用している。ヒヨセルームは、中央図書館本館時計塔の2階部分で内部に備前焼の飾りタイルを配した約30㎡の施設である。ちなみに「ヒヨセ」とは、備前焼で使用する土である。両施設とも当館の特徴的な施設であり、ネーミングライツ対象施設としての効果が高いと判断した。

4. 公募開始～契約者決定

附属図書館以外の部局の施設も含めて、2019年8月に公募を開始した。大学のウェブサイトにて特設ページを設けてチラシや募集要項、契約書のひな型等が公開された²⁾。

公募期間は、当初1か月であったが、応募がなかったため、延長措置を取った。本稿執筆時点（2022年1月）の募集施設については、「随時募集中」としている。その後、いくつかの企業から問い合わせがあり、現地案内等の対応もした。

2020年3月にオージー技研株式会社、株式会社岡山村田製作所から正式な応募があり、学内関係部署での審議を経て、2020年5月に両社をネーミングライツ・パートナーとして正式決定した。愛称はそれぞれ以下の通りである。

(1) OG Wellness SALON

パートナー：オージー技研株式会社

対象施設：ラーニングコモンズ, リフレッシュスペース（2施設をまとめた愛称）

(2) ムラタアカデミア

パートナー：株式会社岡山村田製作所

対象施設：サルトフロresta



(3) ムラタスクエア

パートナー：株式会社岡山村田製作所
対象施設：ヒヨセルーム

5. 契約締結とサイン等設置

契約者が決定した2020年の春は、新型コロナウイルス感染症の影響が全国的に拡大した時期である。岡山大学においても、授業のオンライン化や岡山県への緊急事態宣言発令に伴う図書館の休館等を余儀なくされた。そのため、両社と協議し、運用開始を新学期が始まる2020年10月からとして契約締結やサイン等の設置をはじめとする準備を進めることとした。

契約締結は財務部が担当するため、図書館では、サイン等の設置に関して両社との打ち合わせを重ねた。ここで苦労したことは、「企業の宣伝がどこまで許容されるか」であった。

企業にとって、大学施設のネーミングライツ獲得は、採用活動の一環ととらえることもできる。学生に当該企業を知ってもらうことで、将来的な就職につなげる狙いである。ネーミングライツ・

パートナーの権利として、対象施設への愛称表示サインや案内看板等の設置がある。しかし、単に愛称のみの表示では、学生にアピールできる情報が少ない。どのような企業なのか、どのような製品を作っているのかなどの企業紹介がどこまでできるのか。また、企業のパンフレットなどを設置できるのかなどが課題であった。本学、両社ともネーミングライツは初めての事業であり、お互い手探り状態だったが、両社からの相談・提案事項について、一つ一つ協議し、デザインを確定した。

6. 運用開始と効果

2020年10月の運用開始時は、新型コロナウイルス感染症対策もあり、残念ながらテープカット等の式典は実施できなかった。学生の反応はと言えば、今までなかったサイン等に一瞬立ち止まる姿も見えたが、その後は自然に受け入れているようであった。

新型コロナウイルス感染症の影響で、館内で開催するイベントは減少したが、チラシ・ポスターに会場名を表示しているため、確実に定着しつつある。また、個人的にも学外において両社の名称やキャラクターに自然と目が向くようになり、ネーミングライツの効果を実感している。

7. おわりに

岡山大学附属図書館におけるネーミングライツ導入は、学内でも初めての取り組みであった。すでに定着した名称を変えることに不安がなかったわけではない。しかし、企業との連携は、地域に根ざした大学の役割であり、そのための愛称であれば、一歩踏み出すことも重要である。今後もパートナーとしてよりよい関係を築いていきたい。

注

- 1) 岡山大学初のネーミングライツ・パートナー契約を、オージー技研株式会社・株式会社岡山村田製作所と締結。国立大学法人岡山大学。 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/new_s_id9663.html, (参照 2022-01-14)
- 2) 国立大学法人岡山大学ネーミングライツに関する募集。国立大学法人岡山大学。 <https://www.okayama-u.ac.jp/tp/company/namingrights.html>, (参照 2022-01-14)

(とみおか たつじ：岡山大学附属図書館)

[NDC10：013 BSH：1. 図書館経営

2. 岡山大学附属図書館 3. ネーミングライツ]